

カザフスタン旅行の3日目は、半日のツアーを参加してアルマトイ市から35キロに位置する絶景の高山湖ービッグアルマティレイク湖に移動。標高2500メートルのビッグアルマトイ湖は地域にとって重要な水源のため、一般の人は湖に近付くことができず、一部発行されたパスを所持している車で事前に申し込んだツアーに参加して湖を一望できる写真スポットに連れて行ってもらった。半日のツアー料金は1万円ぐらいで少し高いが、山の上のスポットから眺望する青く凍結した湖と雪山の絶景を見たら、やっぱり参加して良かったと感じた。

午後4時頃アルマトイ市内に戻り、少し市内散策して人気のご当地料理を楽しめた後、昔からずっと気になっているロシアンバーニャ(баня、ロシアン式のサウナ)を体験するために、アルマトイ市で一番歴史があるパースハウスのArasan SPAに向かった。1982年のソ連時代から続いてきた同施設は、アルマトイ市のシンボルのような場所で、料金も安く地元民にも愛用されている。最初は、日本のような温泉施設かと思ったらお湯がなく、サウナと水風呂だけ。サウナから上がりひたすらスチームサウナと岩盤浴だけを堪能した。また、郷に入っては郷に従えということで、「ヴェニク」(веник)と呼ばれるヴィヒタを使い背中を叩いたら、少しだけ一日の疲労を取り除いた気がした。

ホテルに戻り、ゆっくり休もうとした時、ズボンのポケットが軽いなと少し違和感があり確認してみたら、なんと、旅中ずっと頼っているスマホがない！どうやら帰りの際Yandexのタクシーに落としたようだ。その時は既に、日本への帰り便の出発時間まで24時間を切ってしまっていた。ここからは、15時間かけてスマホを取り返すための闘いになる。

最初は運転手さんが落としたものに気付いて戻ってくれるかなと期待して、降車地で1時間ぐらい待ってみたが返しに来る気配がなく、一旦ホテルに帰った。幸いノートパソコンも持ってきたため、Yandexの問い合わせ先の電話とメールアドレスを見付けた。しかし携帯を無くした自分は電話をかけることができず、通話できたとしても、自分のロシア語のレベルでは怪しい…。とりあえずYandexカスタマーサービス宛に経緯を細かく記載して送信。しかし、返信がきたのは、翌日帰りの飛行機を乗る直前だった。

その日の夜はインターネットで検索しながらひたすら対策を考えているうちに、体力が尽きて眠りに落ちた。翌朝、5時半に起きたが飛行機の出発まで15時間しか残っていない。とりあえず考えられる方法を全部やってみようと思い、まずホテルの受付のおじさんに相談してみた。もう無理だろうと言うような表情をしながら、その時モスクワ本社は営業時間外で繋がらなかった。それを聞いて絶望しかけた時、「アルマトイオフィスは、確かここから徒歩距離内だから行ってみたら？」とアドバイスしてくれた。

その時は朝7時頃、今からスマホを取り戻すために考えられる方法は二つ。一つはその町の領事館に助けを求め、Yandexに電話をかけてもらうか、ダメだとしても何か別のアドバイスを貰えるかもしれない。もう一つは、ダメ元でYandexの本社に行って直接相談。必ず対応してもらえる保証もなくコミュニケーションズを取れるかどうか不明だが、一番早い方法かもしれない。幸いパソコンで検索してみたら領事館はそのホテルの近くにあるようで、とりあえず行ってみることにした。

しかし、スマホを持っていないためグーグルマップは使えず、事前にホテルのWifiで地図を開いてそのままノートパソコンを両手で持ちながら領事館の方向に向かって歩くことにした。しかし、地図で表示された場所にたどり着いたら、目の前にはショッピングモールしかない。警備員さんに片言のロシア語で尋ねてみたら、別の場所だぞと告げられ、そのまま現金渡して警備員さんの携帯でYandexタクシーを呼んでもらう。しかし、警備員さんが教えてくれた場所は、領事館が記者会見を開く時の会場だった。またその警備員さんに相談して、さらに別のタクシーを呼んでもらいホテルに戻った。こうして無駄足をかけたうえ領事館の場所を見つけこともできなかった。ホテルの電話を借りて電話をかけても繋がらなかった。

残りの道は、Yandex本社に押しかけるしかないと覚悟を決めた自分は、早速パソコンでアルマトイオフィスの住所を調べて検索したら、ホテルから6キロ離れた都心の場所だった。また受付のおじさんに頼んでタクシーを呼んでもらい向かったが、向かった先のオフィスビルにはYandexのロゴはどこにもなく、周りを必死に探してみても見つからなかった。警備員さんと片言のロシア語で会話したらYandexは半年前もう引っ越した、と。しかし、警備員さんは新しい住所を書いて渡してくれた上、ホテルに帰るタクシーも呼んでくれた。Wifiのあるホテルに戻り、早速新しいYandex x オフィスの住所を調べたら、ホテルから徒歩20分ぐらい。結局受付のおじさんが話したことは嘘ではなかったのだ。

また朝のように地図を開いたパソコンを手で持ちながらアルマトイオフィスの新住所に向かって歩き始めたが、結局到着したのは40分後。そのビルは高くしてロビーも広く、IT会社に対応しいモダン感があるとても立派なオフィスビルだった。広いロビーの奥にある受付の女性スタッフさんに声をかけると、さすがに受付のお姉さんは英語が上手で無事にコミュニケーションズを取ることができた。事情を説明したら、最初はカスタマーサービスに電話をかけるようマニュアル対応されたが、スマホを無くしたから電話すらできないんだと必死に頼んだら、カスタマーサービスに電話してくれることに。それからずっとモスクワのカスタマーサービスと電話で話してくれて2時間かけた末、ようやくドライバーの携帯電話の番号を特定することができた。ドライバーに電話してもらおうとスマホを確認できた。もちろんただで返してくれるわけがなく、遠い所にいるからスマホを届けに来る費用が高いと言われ、仕方なく高めの金額を約束してスマホを届けてもらった。実際ドライバーがスマホを返してくれた時受付の人も立ち会ってくれたが、1万4000テンゲを渡したのを見るとкак дорого！（高いよ！）と声を上げた。

そんな風に色々な人の助けで、無事に紛失したスマホを取り戻すことができたが、その時は既に18時過ぎ。それからすぐに荷物まとめて空港に向い、ギリギリ飛行機に間に合った。カザフスタンの最終日、まさかこのような過ごし方になるとは旅立った時は想像もしなかった。そして、帰りの飛行機に乗る前に再びメールを開いてみたら、Yandexのカスタマーサービスと領事館からようやく返信が来ており、今日一日行動せずに待っていたら絶対スマホを取り戻せなかったと、改めて頑張った自分を少し褒めたい気分になりました。